



ひな人形や千代紙人形がたくさん 城下町やつしろのお祭り



▲ひな飾りを見つめる来場者

2月15日、城下町やつしろのお祭りオープンイベントが開催されました。田中浩二副市長が「商店街をはじめ日奈久、鏡などさまざまなイベントがありますので楽しんでください」とあいさつ。八代白百合学園高校箏曲部の演奏や夕葉保育園の太鼓演奏がレモニーに花を添えました。濱崎翔真さん（4歳）は「保育園でもひな祭りの歌を歌っていて、楽しみにしてきました。おひなさんが大きくなってびっくりした」と話しました。

トマトの魅力を感じ 第8回やつしろTOMATOフェスタ



▲八代農業高校の生徒によるトマト鍋振り舞

2月11日、第8回やつしろTOMATOフェスタがやつしろハーモニホールで開催され、市内外から約3500人が来場しました。会場では、トマト早食い大会、同フェスタイメージキャラクターとまびんのステージイベント、トマトなどの八代産農産物の販売などが行われ、トマトづくしのイベントとなりました。八代農業高校食品研究部の生徒が1カ月以上かけて考案したトマト鍋約500食の振り舞いでは、来場者がトマトやキャベツ、シーフードなど具だくさんのトマト鍋で体を温めました。

男女共同参画について考える いっそDEフェスタ



▲高校生の男女共同参画をテーマとした演劇

2月9日、いっそDEフェスタ2020がやつしろハーモニホールで開催されました。大正大学心理社会学部の田中俊之准教授による講演では、男らしさ、女らしさにとらわれない多様な生き方を認める寛容な社会の必要性について話し、またオープニングステージでは高校生による男女共同参画をテーマとした演劇が行われました。その他にもワークショップやマルシェなどがあり、会場は多くの家族連れや学生などでにぎわいました。

国際交流を深める タイからの語学研修生受け入れ



▲今回入学したタイからの学生ら

1月22日、中九州短期大学で語学研修生の入学式が行われました。同大学は平成28年からタイとの交流を活発に行っており、昨年5月にはタイのエヌ・テックインターナショナル テクノロジーカレッジと交流及び協力に関する協定提携を結びました。今回、15歳から20歳までの6人が日本語や日本の文化などを約3カ月間学びます。入学したセンパクデー ジャルデートさんは「日本語や文化などを勉強し、日本とタイの交流のために働きたい」と抱負を語りました。

歴史や思い出を後世につなげよう 旧宮地東小学校閉校記念碑除幕式



▲除幕の様子

1月19日、旧宮地東小学校で、卒業生など約40人が参加し旧宮地東小学校閉校記念碑の除幕式が行われました。この記念碑は、平成25年の閉校時にいつか記念碑を建てようとして話をしていたものの、なかなか進まなかったため、同校卒業生の米本昭徳さんが、生まれ育った東町に何か恩返しをしたいとの思いから寄贈したものです。除幕式の最後には、参加者全員で同校の校歌を合唱し、参加者らは学校生活の思い出などに花を咲かせました。

チームの思いを誓に込めて 第15回八代市校区対抗駅伝競走



▲6区から7区への襪りレー

1月19日、第15回八代市校区対抗駅伝競走が開催されました。17チーム170人のランナーが襪をつなぎ、全10区間、31.7kmのコースを競い合いました。レースは2連覇中の金剛校区が2位に2分51秒の差を付け、大会新記録となる1時間40分14秒で優勝し3連覇を達成。個人記録では10区間中5区間で区間新記録が生まれました。トップでゴールテープを切った橋口積さん（金剛校区）は「練習を頑張り次回大会は4連覇を目指す」と意気込みました。

100歳おめでとうございます



田口 ヨシ子さん
(坂本町)
大正9年1月28日生

若い頃は歌を聴いたり、歌ったりするのが好きだったヨシ子さん。100歳を迎えて「小さな体で長生きできたのはご先祖様をはじめ家族のおかげ」と話しました。誰にでも優しく、施設では入所者のエプロンやおしぼりなどの洗濯物を積極的に畳み、みんなから感謝されやがいを感じているそうです。

144年の歴史に幕 鏡西部小学校閉校式



▲校歌を歌う児童ら

2月16日、鏡西部小学校の閉校式が行われ、全校児童25人、卒業生、地元関係者ら約120人が出席し、校舎との別れを惜しみました。式典では、大任和行校長が「これまで大切にしてきた教育理念と地域の皆さんが子どもたちを思いやる気持ちは受け継がれていきます」と式辞を述べ、校旗返納や出席者全員での校歌斉唱が行われました。6年生の岩崎康平さん、河内瑞希さん、横溝彩姫さんは「閉校は寂しい。地域のみんなと協力して行った運動会が楽しかった」とそれぞれ思い出を振り返りました。

湯の里日奈久に春を連れてくる 第11回ひなぐ雛祭り



▲かぐや姫が籠に乗って移動しました

2月15日、日奈久に春を届ける「ひなぐ雛祭り」のオープニングイベント「雛迎えの儀」が行われ、日奈久かぐや姫の一行が日奈久温泉センターばんべいゆから日奈久ゆめ倉庫までを練り歩きました。華やかな着物のかぐや姫が登場すると観客は一齐に携帯電話などで撮影。また、秀岳館高校雅太鼓の演奏やそがみまこ童謡コンサートも行われ、会場は華やかな雰囲気になりました。期間中は、雛手作り体験、雛句会、古布市、うまかもん市などが行われます。

3年連続の八代合宿 女子ソフトボールチーム 八代合宿



▲塩澤主将と中村市長

2月3日、女子ソフトボールチームのタカギ北九州ウオーターウェーブの磯野稔監督、塩澤こころ主将、内藤共笑マネージャーの3人が市役所鏡支所を訪れ、中村博生市長を表敬訪問しました。タカギ北九州ウオーターウェーブは、福岡県北九州市を本拠地とするチームで、本市での強化合宿は3年連続3度目となります。塩澤主将は「一人一人の特徴を生かして、27人がチーム一丸となって戦っていききたい」と意気込みを語りました。

環境問題を学ぶ 国際水教育プログラム



▲地球の水について学ぶ児童ら

1月30日、宮地小学校で国際水教育プログラム「プロジェクトWET」が行われ、同校の1、2年生54人が参加しました。これは「プロジェクトWET」を利用した授業を行い、SDGs（2030年まで持続可能でよりよい世界を目指す国際目標）の実行を担う子どもを育てることを目的に行われました。児童らは地球儀を使った水の学習や、ごみの分別、ごみが川に詰まると川の水が溢れ出すことの体験ゲームなどを通して、環境について楽しく学びました。

みんなと食べて素敵な思い出 児童と市長の給食会



▲中村市長と給食を食べる児童ら

1月24日、鏡西部小学校で全児童25人と中村博生市長らとの給食会が行われました。これは全国学校給食週間に合わせて、学校給食の大切さを改めて考える機会とするもので、今年で11回目です。この日の献立は、スペインの郷土料理パエリア、スパニッシュオムレツなどで、児童らは中村市長や教職員らと給食を楽しみました。河内瑞希さん（6年生）は「卒業までの給食は調理員の先生や生産者など、給食に関わる人たちに感謝して食べたい」と話しました。